いの流水俳壇

「当季雑詠」

刈谷　志津　選

特選

水張田平和平和と蟇のこゑ

植田　紀子

（評）水張田とは、田植え前の田に満々と水を張ることで、蟇は「ヒキガエル」の別称であり、一見グロテスクであるが、蛙の王様かもしれない。昼間は草叢に隠れ、夜に出て鳴く。その鳴き声を擬人化して大声で「平和平和」と鳴いているように聞こえ、少しユーモラスでもある。しかし、この句のポイントは「平和」だと思う。すべての人類の願望は世界平和である。悲惨な戦争を体験した我々には痛切に、作者もその願いを込めてこの句を詠み、蟇の声を平和と捉えた。この率直な発想に共感して拍手を送りたい。

風誘う落花の舞の宴かな

大川　節弥

（評）俳句の季語「落花」は桜の花の散ることで、桜の花はなぜか咲いている時よりも散り際が美しいとされている。この頃は南寄りの季節風が吹くとされている。花はこの風に誘われて散って行く。落花の行方は風まかせ、風の強弱によりさっと潔く、ひらひらとゆるやかに舞う様子を「落花の舞」と表現。その落花の下には、花見のために用意した花莚を敷き、それぞれの馳走を並べ、いざ本番の宴会となり、差し交わす盃に折よく受け止めた花びら。その風雅な雰囲気に酔う。宴を盛り上げ楽しい思い出作りとなった落花を詠み、美しく格調高い作品。

呼び交す鶯仁淀川堤

津田　久美

（評）春も闌となり、鶯の囀りも最高潮に達し滔々と流れ、仁淀ブルーでも有名な清流仁淀川。いの町の堤防には「桜堤」と呼ばれ、毎年花見客で賑わう区間がある。特に今年は好天にも恵まれ、花も見事であったと聞く。作者は家族と一緒にこの堤へ。そこで出合ったのが鶯。「呼び交す」の借辞で、一羽ではなく二羽であった事もわかる。鶯の鳴き声には、後に引くみずみずしい余韻を感じる。ここでは梅でなく「桜に鶯」である。仲睦まじい鶯の声と花びらを載せた仁淀川。自然からのプレゼントの感動を即座に詠み、情景がよく見え写生の光る佳句。

入選

亡夫恋いの鉢の春蘭花を待つ　片岡　包女
畑焼く煙嬉しく農に生く　渡邊ゆかり
進学は父のふる里風薫る　川村　博子
大根の花一本をさしてみる　平野　洋子
春一番風吹き荒れて山唸る　片岡　豊子

二句抄

散る桜止まりてまとう交差点　岡村　嘉夫
花吹雪今を盛りと風を呼ぶ　竹崎たかひろ
一年の早かりきかな花の下　片岡　包女
よろしくと言ぬばかりの軒燕　川村　博子
天空に鴉舞いすむ昼の月　森岡　照月
庭先に主の笑顔花馬酔木　渡邊ゆかり
花片を浴びつつ子等の弾む声　平野　洋子
花吹雪尊徳像も面あげて　片岡　豊子
農道の脇にて雉と遊びけり　石原　静
入学の親子よりそう初初し　植田　紀子
彼岸過ぎ反転するや昼と夜　津田　久美
山桜愛でし人なりかの昔　大川　節弥
屋根上に山雀這って春暑し　刈谷　志津
ドライブの右も左も花ざかり
水仙花無情の雨におじぎする
早蕨に日和のつづく雨を待つ
出合いたるへくそかずらといふ花に
パーキンソンやっと字が書けつつじ咲く
切切と落花の掟見てしまふ
夕星や田蛙人を恋しがる
春光をとらえ離さぬ杖の先
風光る健康寿命願いつつ
思い出を一つ残して散る桜
先駆けて咲きし土佐路の桜かな
直販に届く山菜燕来る
上衣手に渡る歩道の春日傘

次題「当季雑詠」　締切／毎月1日

投句先　教育委員会事務局
いの町1700-1　☎893-1922

有料広告

JA全農こうち指定 命の鍵を握っているのはシロアリです。

白蟻被害を巣から断つ!!

もしかして…シロアリ!?

シロアリは黒アリとは生態や体型もまったく違います。

シロアリを見かけると…　シロアリは社会性昆虫です。見かけると必ず近くに「巣」が存在し女王が次々と産卵をしています。「巣」は大きいもので数百万匹にも及ぶ場合があります。

ホームページ　クリック!!
友清白蟻　検索

なぜ、ベイト工法はシロアリの駆除には最適なのか？

ベイト工法はシロアリの習性を利用し、今までの工法では難しかった「巣」の駆除が可能となりました。シロアリの駆除や予防は家の構造及び建築工法により様々な施工方法があります。弊社では現地調査をして最適な施工法をお勧めいたします。

株式会社友清白蟻

■高知支店　高知市前里70番地3
TEL088-824-1501　FAX088-822-0733